

|       |           |      |            |           |
|-------|-----------|------|------------|-----------|
| 講義名   | 研究演習（全学部） |      |            |           |
| 講義コード | 25226     | 授業形態 |            | 開講期・曜日・時限 |
| 担当教員  | 藤原 喜美子    |      | サンパリング・コード | SEM250    |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 学部・学科                                  | 演習分野              |
| 全学部（商学部・経済学部・人間社会学部）<br>マーケティング学科・経営学科 | 藤原喜美子ゼミナール（日本文化論） |

**概要説明**

この研究演習の目的は、日本の民俗（生活文化）に注目し、日本の文化の特色を考えることにあります。日本の民俗（生活文化）は、文字に記されている史料以外に、文字に記されていない民俗資料からも明らかにすることができます。日常生活における体験談、家や地域に伝わる言い伝えや習慣（伝承）などが、この学問の大事な情報源になります。

私達の日常生活は、地域ごとに特色が見られます。例えば、住居・衣服・食事・生業（農業・漁業・林業など）・村構成（子供会・青年団など）・人生儀礼（誕生・婚姻・葬送など）・年中行事（正月・節分・節供・七夕・お盆・月見など）・神祭・伝説・昔話・命名・民間信仰などが、研究のテーマになります。また、各地域の特色を知るために、文献だけではなく、フィールドワーク（聞き取り調査）による資料収集が必要となります。

そこで、研究演習では、日本の日常生活の中で伝承されてきた各地域の情報（民俗）を収集・整理する方法を学びます。そして、得られた地域の特色を考察し、日本の文化の中に位置付けたいと思います。地域の情報（民俗）は多種多様であるため、それらの資料をいかに整理していくかが重要です。そのために、口頭発表や質疑応答を通して、日本の民俗（生活文化）を理解する方法について、ゼミの皆さんとともに学んでいきたいと思います。

研究演習 では、宮本常一氏『ふるさとの生活』をテキストとして利用し、個人の発表や質疑応答を行います。

**主な卒業論文のタイトル**

- 〔2023年度卒業論文〕
  - ・石鐘山と山岳信仰について 登山と修行の違いとは
  - ・明治文明開化と現代
  - ・私の故郷（兵庫県神崎郡福崎町）の秋祭りについて
  - ・故郷岡山県真庭市の祭り文化
  - ・岡山県備前市の魅力について
  - ・広島県の郷土料理と平和に対する思いについて
  - ・カフェの歴史と種類
  - ・台湾の御廟文化と神様の由緒
- 〔2022年度卒業論文〕
  - ・兵庫県の神社と種類別傾向
  - ・ジャパニーズワイスキーの過去と未来の課題
  - ・源頼朝の人生について追る
  - ・祭りの牛車と伝説の牛車
  - ・神と神社と日常の関わり
  - ・日本の外国と言われる北海道の町 町の現状・文化や英語学習について
  - ・中華系マレーシア人の年中行事とお祭り
  - ・マレーシアの人生儀礼 結婚式の儀式と形

**教員よりの要望**

- ・積極的な姿勢で取り組むこと。現地見学（フィールドワーク）などを行うことがありますので、その時は必ず参加してください。
- ・日常生活（民俗）に対して、大いに興味を持ってくださることを期待します。日常生活には、日本の文化を語る多くの資料が満ちあふれています。身近な事柄に対して、何事にも強い関心や疑問を持ってください。

**選考方法**

- ・個別ガイダンスは、必ず参加してください。個別ガイダンスで、ゼミの詳細を話しますので、話を聞いていただきたいと思います。ガイダンスに不参加の場合は、選考の対象から省きます。
- ・演習申込書（文章量・記述の内容）、選考のための面接（志望動機・関心のあるテーマ）等によって、総合的に判断します。

|  |  |
|--|--|
| 評価方法   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席を重視します。原則として毎時間、出席調査を実施します。欠席や遅刻状況も評価の中に含まれます。もし、体調不良などで欠席する場合は、必ずメールで担当教員へ連絡してください。</li> <li>・レポートや研究発表の内容は当然ですが、研究演習に取り組み姿勢、発表者に対する質問（討論への参加度）など勘案して、評価を行います。</li> </ul> |  |

|                 |          |
|-----------------|----------|
| 教員英字氏名          | 研究室      |
| Fujiwara Kimiko | 研究棟 2711 |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 最終学歴                                |
| 神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻 博士後期課程単位取得満期退学 |

|          |
|----------|
| 学位       |
| 修士（日本史学） |

**主な研究活動・社会活動・研究業績**

〔社会活動〕大阪狭山市文化財保護審議会委員（民俗）、加古川市文化財保護審議会委員（民俗）、播磨町文化財審議委員（民俗）

〔研究業績〕  
 著書『オニを迎え祭る人びと 民俗芸能とムラ』（御影史学研究会民俗学叢書17、岩田書院、2006年10月刊）  
 論文「五條市近内町の高野参りと六高念仏」（『考古学論叢』第30冊、奈良県立橿原考古学研究所、2007年3月刊）  
 論文「八正寺と鬼合式「鬼のお面箱取り」をめぐって」（『久里』20号、神戸女子民俗学会、2007年4月刊）  
 論文「蓮花寺の「山の神の鬼面」のもつ意味」（『山岳修験』第43号、日本山岳修験学会、2009年3月刊）  
 論文「宇崎島の修正会鬼祭 満潮に二匹の鬼が呼びあうこと」（『御影史学論集』第34号、御影史学研究会、2009年10月刊）  
 論文「愛知県岡田町の夜備追神事」（『流通科学大学教養センター紀要』第1号、流通科学大学教養センター、2011年5月刊）  
 論文「兵庫県加東市の朝光寺の鬼語り 修正会の祈りから八十八夜の祭りへ」（『久里』29・30合併号、神戸女子民俗学会、2012年6月刊）  
 論文「修正会と鬼 播磨の八葉寺の修正会と 中右記。『兵範記』をめぐって」（『鶴崎裕雄編「地域文化の歴史を往く 古代・中世から近世へ」』和泉書院、2102年6月刊）  
 論文「兵庫県加西市住吉神社に伝わる踏合せの神事」（『久里』32号、神戸女子民俗学会、2013年6月刊）  
 論文「播磨の鶴林寺の修正会と鬼追い 謡曲「吉道」との関わり」（『御影史学論集』38号、御影史学研究会、2013年10月刊）  
 論文「香椎宮の鶏石神社と神功皇后と湊」（『久里』33号、神戸女子民俗学会、2014年1月刊）  
 ○論文「相撲節会の占手と童相撲」（『御影史学論集』42号、御影史学研究会、2017年10月刊）  
 論文「神社の祭りににおける相撲と子ども 神の相撲に関わる子どもの存在」（『日本文化論と民俗学』創刊号、流通科学大学人間社会学部藤原研究室、2017年8月刊）  
 論文「相撲節会の占手と童相撲」（『御影史学論集』42号、御影史学研究会、2017年10月刊）  
 論文「香川県の田井の子供神相撲と神相撲に連はれる子ども」（『日本文化論と民俗学』2号、流通科学大学人間社会学部藤原研究室、2019年3月刊）

**趣味・特技**  
 各地域へ出かけて行き、歴史や文化に関わるものを探し、新たな発見をすることが楽しみです。

|            |
|------------|
| 所属         |
| 人間社会学部観光学科 |

**所属学会**

御影史学研究会、神戸女子民俗学会、日本民俗学会、まつり同好会、日本山岳修験学会、藝能史研究会、文化人類学会

|       |
|-------|
| 専門分野  |
| 日本民俗学 |

|   |
|---|
| 担当科目  |
| 日本文化論、地誌学、日本史A、日本史B、神戸の景観と歴史、教養特講（観光学へのいざない）、教養特講（地理・歴史へのいざない）、教養特講（読書力）、教養特講（世界の中の日本）、基礎知識（歴史）、専門基礎演習、研究演習、研究演習、卒業研究 |

**備考**

研究演習の選択は、自分の進む道（生き方）を大きく変えます。  
 私自身は大学生の時、「日本民俗学（生活文化史）」に偶然、出会いました。民俗学では、普段私たちが「当たり前」だと思っている日常生活すべてが、研究対象になりました。そのことに大変驚き、親しみを覚え、私は民俗学のゼミを選択しました。  
 ゼミの時間、「自分の好きなテーマを見つけることができたら、一生楽しめる」と恩師はおっしゃいました。そして、ゼミを通して、研究の楽しさや喜びを、次々と教えていただきました。  
 こうした中で、私の選んだテーマは、「兵庫県の鬼の祭り」でした。これは自分の住む地域に継承されてきた寺院の正月の行事でした。研究テーマは、私のすぐ足もとに眠っていました。

**実務経験の有無及び活用**  
 実務経験あり。地域の民俗（生活文化）に関わる現地調査等の機会をいただいています。そこで学んだ現地調査等の経験をもとに、研究演習の取り組み（調査報告書や卒業論文の作成）の中で、現地調査の説明内容として活用させていただいています。